



単元名 日本の水産業を調べよう

単元の目標 海を周りに囲まれたわが国では、昔から漁業が盛んであることに気づく。民謡として漁の様子が語り湯枯れていることから、日本と漁業は切り離せないことに興味・関心を持ち、現時点で漁業が抱える問題について理解できる。更に漁業協同組合に手紙を出すなどして、現場での度量区や漁業への取り組みなどを知りえることができる。

単元の指導計画 第一次 日本の水産業を調べようの導入

- 二 質問を考えよう
- 三 遠い海での漁が振るわないのはね
- 四 沿岸漁業はこのままでは心配です
- 五 生産が増えているのは養殖漁業です
- 六 新鮮な魚を消費者へ

本字のねらい 民謡を通して漁業に興味・関心が持てる

既存の知識から今と昔との漁の違いを見つけ、また現在の漁に関する知識を正しく理解していくための契機とすることができる

本字の展開（第一次）

	教授活動	教材・資料	学習内容・学習活動
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ソーラン節」の歌詞を配布</li> <li>・ 「ソーラン節」の説明</li> <li>・ 音楽を聴く、1フレーズを歌ってみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ソーラン節」の歌詞</li> <li>・ 「ソーラン節」とは</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これは何を歌っているかを考える。（かもめ、波・・・などの要素から「にしん漁」を示している）</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挿絵から気づいた点を発表</li> <li>・ 歌詞からこの漁の様子を想像する</li> <li>・ 民謡の内容と現在の漁について、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ソーラン節」の歌詞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「網を使っている」「空と海が赤いから日の出前だ」など、漁に係る部分を考える</li> <li>・ 「にしん来たかと鷗に問えば」「沖の鷗にしおどき問えば」・・・など、かもめが多く出ていることからにしん漁には鷗は欠かせなかったのではないか</li> <li>・ 「ドッコイショ」</li> </ul>



	<p>各々(班ごと)が抱いている想像とを比べてみる</p> <p>・ 教師が疑問手を指摘する、また子どもたちからも出させる</p>		<p>などの表現から重労働でありたい漁を願ったものだという事に気づく。そしてどのような格好(作業)でドッコイショというのかシチュエーションを演じさせる</p> <p>・ 「にしんの居場所は鰯に聞かなくとも機械でわかるのではないか」「今は手で網を引くよりでんどうもつかっているのではないか」</p> <p>これらから昔よりにしんは多くとれていると思わせる。 「昔よりも海が汚れてにしんは大丈夫なのか」「もしお嫁さんが来なかったら漁師は減るのではないか」「大漁なのはいいことだがとりすぎてもいいか」</p>
まとめ	<p>これらの疑問点を解決するために、まず仮説を立てる。また、解決するためには教科書以外からどうやって探すかを話し合う</p>		<p>・ 各班1個の疑問点を担当する</p>

資料中の「ソーラン節」(歌詞&挿絵)は・・・サイト「童謡・唱歌の世界」からです